

第1回

蝶(ちょう)



英語にする butterfly。羽を広げて舞う姿は何とも優雅です。中には

「蛾に似ている」と嫌う人もいます。確かに、『和名類聚抄』では蝶のことを

「形似蛾而色白物他」と「蛾に似て白いもの」と説明しています。一方

で蛾は絹(繭)を生み出す生き物ですから、古来より非常に大切にされて

きたのも事実です。

蝶を使った文様を一般的に「蝶文」と呼びます。中でも、女性の装束

に多く用いられたのが向かい合っているものです。向蝶、三連蝶丸



裂地画像提供：株式会社誉勤商店

その柄の意味、知っていますか？

文様を学ぶ

装束に欠かせない文様の知識。有職故実から生まれた有職文様の数は数え切れない。文様の魅力を深掘りする連載。案内人がお答えします。

解説

(1) 和名類聚抄

— わみょううのいじゆしやう

平安時代中期に作られた辞書。

(2) 紫式部日記絵巻

— むらさきしきぶにつきえまき

紫式部によって記された『紫式部日記』を元に制作された絵巻物。

五連蝶丸など、蝶を向かい合わせにして丸く描いたものをよく見かけますが、そうではないものもあります。『紫式部日記絵巻』には蝶が舞い飛ぶ胡蝶の文様をあしらった女房の柱が見られます。

優美な姿と、その成長過程から蝶は縁起が良いとされ、吉祥文様としても知られています。幼虫から脱皮し、美しく羽を広げて蝶になる。平安時代の女性たちが好んで蝶文を身に付けた理由が、ここにあるのかもしれません。

最後に、装束の世界では臥蝶丸が大変有名ですが、これについては別機会を設けて説明します。

監修者

文様の案内人 松井幸生さん

1962年京都府生まれ。株式会社誉勤商店社長で金襴織物・裂地の製造卸商を営む。誉田屋勤兵衛から数えて13代目。「にんぎょ日本」では連載「教えて先生！日本人形の衣裳にとことん迫る」の監修者として活躍。京人形商工業協同組合理事。平成12年伝統的工芸品産業審議会臨時委員任命。翌年、伝統的工芸品産業の奨励賞を受賞した。